

研修カリキュラム表（介護職員初任者研修課程 通信）

事業者名 株式会社メドレー

※実施方法については、「実施要綱」別紙3「各項目の到達目標、評価、内容」を網羅した内容とすること。

研修カリキュラム（実施要綱別紙1）		実施計画			
講義・演習（実習）		カリキュラム名・時間数			実施内容
1 職務の理解	6 時間	1 職務の理解	6 時間	1 職務の理解	
			通学	通信	合計
(1) 多様なサービスの理解		(1) 同左	3		3
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解		(2) 同左	3		3
2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	9 時間	2 介護における尊厳の保持・自立支援	
			通学	通信	合計
(1) 人権と尊厳を支える介護		(1) 同左		4	4
(2) 自立に向けた介護		(2) 同左	1.5	3.5	5
3 介護の基本	6 時間	3 介護の基本	6 時間	3 介護の基本	
			通学	通信	合計
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携		(1) 同左		1	1
(2) 介護職の職業倫理		(2) 同左		2	2
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント		(3) 同左	2		2
(4) 介護職の安全		(4) 同左	1		1
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	9 時間	4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	
			通学	通信	合計
(1) 介護保険制度		(1) 同左	1.5	1.5	3
(2) 障害福祉制度及びその他制度		(2) 同左		3	3
(3) 医療との連携とリハビリテーション		(3) 同左		3	3

5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間			5 介護におけるコミュニケーション技術 6 時間			5 介護におけるコミュニケーション技術		
				通学	通信	合計		
(1) 介護におけるコミュニケーション			(1) 同左		3	3	(1) 通信講習のみ	
	(2) 介護におけるチームのコミュニケーション		(2) 同左	3		3	講義と演習:記録における情報の共有化等について講義を行い、演習では記録を実際に作成し、記載方法を学ぶ。また、ケアカンファレンスについてロールプレイを行う。	
6 老化の理解 6 時間			6 老化の理解 6 時間			6 老化の理解		
				通学	通信	合計		
(1) 老化に伴うこととからだの変化と日常			(1) 同左	3		3	(1) 講義及び演習:高齢者に多い疾病と、対応時の留意点について講義を行い、演習では対応時の留意点についてグループ討議を行う。	
	(2) 高齢者と健康		(2) 同左		3	3	(2) 通信講習のみ	
7 認知症の理解 6 時間			7 認知症の理解 6 時間			7 認知症の理解		
				通学	通信	合計		
(1) 認知症を取り巻く状況			(1) 同左	1		1	(1) 講義と演習:認知症ケアの理念等について講義を行い、演習では講師事例についてグループ討議を行う。	
	(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		(2) 同左		1	1	(2) 通信講習のみ	
	(3) 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活		(3) 同左		2	2	(3) 通信講習のみ	
	(4) 家族への支援		(4) 同左	2		2	講義及び演習:介護職としての家族支援について講義し、演習では家族が認知症になった事例を基にグループ討議を行う。	
8 障害の理解 3 時間			8 障害の理解 3 時間			8 障害の理解		
				通学	通信	合計		
(1) 障害の基礎的理解			(1) 同左		1	1	(1) 通信講習のみ	
	(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識		(2) 同左		0.5	0.5	(2) 通信講習のみ	
	(3) 家族の心理、かかわり支援の理解		(3) 同左	1.5		1.5	講義及び演習:障害者(児)家族への支援について講義を行い、演習では介護職として、障害者(児)の家族へどのような支援を行えるかグループ討議を行う。	

9 ところとからだのしくみと生活支援技術 75 時間				9 ところとからだのしくみと生活支援技術 75 時間				9 ところとからだのしくみと生活支援技術 75 時間			
ア 基本知識の学習 10～13時間				ア 基本知識の学習 10 時間				ア 基本知識の学習			
					通学	通信	合計				
(1) 介護の基本的な考え方				(1) 同左		4	4	(1) 通信講習のみ			
(2) 介護に関するところとからだのしくみの基礎的理解				(2) 同左		3	3	(2) 通信講習のみ			
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解				(3) 同左		3	3	(3) 通信講習のみ			
イ 生活支援技術の講義・演習 50～55時間				イ 生活支援技術の講義・演習 54 時間				イ 生活支援技術の講義・演習			
					通学	通信	合計				
(4) 生活と家事				(4) 同左	4	2	6	(4) 講義及び演習:生活と家事について講義を行い、演習として疾病別の献立作成のグループワークを行う。			
(5) 快適な居住環境整備と介護				(5) 同左	6		6	(5) 講義及び演習:快適な居住環境整備と介護について講義を行い、演習として家庭内での事故防止についてグループ討議を行う。			
(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護				(6) 同左	6		6	(6) 講義及び演習:整容に関する知識と技術の講義を行い、着脱介助の実技演習を行う。			
(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護				(7) 同左	6		6	(7) 講義及び演習:身体機能の状態に応じた移動・移乗に関する講義を行い、移乗・移動介助の実技演習を行う。			
(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護				(8) 同左	6		6	(8) 講義及び演習:食事に係る基礎知識や環境整備、支援方法の講義を行い、食事介助の実技演習を行う。			
(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護				(9) 同左	6		6	(9) 講義及び演習:入浴と清潔保持の基礎知識と用具の活用方法について講義を行い、全身清拭や部分浴の実技演習を行う。			
(10) 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護				(10) 同左	6		6	(10) 講義及び演習:排泄の基本知識や環境整備、用具の活用方法の講義を行い、排泄の介助方法等の実技演習を行う。			
(11) 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護				(11) 同左	6		6	(11) 講義及び演習:睡眠や体位変換と環境整備について講義を行い、ベットメイキングや体位変換の実技演習を行う。			
(12) 死にゆく人に関したところとからだのしくみと終末期介護				(12) 同左	6		6	(12) 講義と演習:終末期介護の考え方や留意点について講義を行い、演習として介護職の役割や対応方法についてグループ討議を行う。			
(実習)* (50～55時間中12時間以内)				(実習)* 0 時間				(実習)*			
介護実習 ○時間											
ホームヘルプサービス同行訪問 ○時間											
在宅サービス提供現場見学 ○時間											
ウ 生活支援技術演習 10～12時間				ウ 生活支援技術演習 11 時間				ウ 生活支援技術演習			
					通学	通信	合計				
(13) 介護過程の基礎的理解				(13) 同左	6		6	(13) 講義及び実技演習:事例に基づき個別援助計画の作成演習を行う。			
(14) 総合生活支援技術演習				(14) 同左	5		5	(14) 講義及び実技演習:2つの事例に基づき一連の介助技術を行い技術習得度評価を受ける。			
10 振り返り 4 時間				10 振り返り 4 時間				10 振り返り			
					通学	通信	合計				
(1) 振り返り				(1) 同左	2		2	(1) 講義及び演習:研修での学びの振り返りを講義にて行い、演習として今後継続して学ぶべきことについてグループ討議を行い、発表をする。			
(2) 就業への備えと研修修了後における継続的な研修				(2) 同左	2		2	(2) 講義及び演習:就業へ備えた考え方や留意点の講義を行い、演習としてこれからの自分をテーマに考え発表し就業への準備を行う。			
追加カリキュラム 時間											
計 (130 時間)				計 (130 時間)							

※「9ところとからだのしくみと生活支援技術」内で実習を行う場合、1・2時間以内とする。